第三者意見

EMO（欧州地域）、IMTS（米国）、JIMTOF（日本）は、世界三大国際工作機械見本市として良く知られており、世界の工作機械技術動向を知るためには、最も有効な展示会となっております。筆者は、1989年のEMO（ハノーバ）を皮切りに、1995年からは、毎年のようにEMO、IMTS（2004年、2006年は視察せず）の視察をしてきました。したがって、すでに15年以上に亘り、世界の工作機械関連の技術動向を見てきたことになります。この間、ＴＨＫ殿のブースには必ず立ち寄り、最新の技術動向を勉強させて頂いておりますが、今では、それが、私の楽しみの一つにもなっております。それは、必ずと言ってよい程、毎回、独創的な新製品が出展されるからです。そして、「このような独創的な製品を、長年にわたり継続的に生み出せる源泉は、何であるのか」、いつも知りたいと思っておりました。この度、第三者意見の執筆に当たり、この第5号のCSRレポート2011と共に、過去4回発行されたCSRレポートも拝読し、その源泉は、「しっかりしたマネジメント体制の構築・維持と、社会、環境とのかかわりを大切にするための多くの取組み」であることがわかりました。また、それら取組みには、企業責任を果たし、世界、社会、そして従業員からも信頼される企業を目指すという、確固たる姿勢が感じられます。

本レポートの目次の次のページには、今年３月11日の東日本大地震発生直後のＴＨＫグループの対応が生々しく報告されており、その対応の素晴らしさに感銘を受けました。リスクマネジメントへの取組みについては、創刊号から既に報告がなされており、その継続的な取組みが、今回の大震災発生においても十分に機能し、企業責任を果せたことが実感として伝わってきます。また、トップメッセージにおいては、寺町社長より、ＴＨＫの未来の取組みの一つとして、この大震災からの復興にできる限りの貢献を行うことが宣言されており、また、今年の4月に迎えられた40周年は、一つの節目にすぎないとのお言葉があります。これらのメッセージより、企業責任を果たすことを第一とし、また40周年を迎えたことに満足することなく、その先の未来を見据えていく、ＴＨＫ殿の力強い取組み姿勢を感じ取ることができました。

さらに、本レポートを通して感じることは、常に、人が中心にあるということです。人を大切にし、人を育てる。そして、従業員も含めた、株主、顧客、ユーザー、グループ会社、協力会社といったステークホルダーの、「それぞれの“お陰”」を大切にしていることが、今日のＴＨＫ殿を築き上げているように感じます。また、本レポートは、会社全体を見える化し、それぞれがそれぞれの立場で、会社に貢献し易くするための環境づくりに、大いに貢献しているように思います。

企業は、まさしく、従業員も含めた多くのステークホルダーの活動の連鎖が効果的に機能しあって成り立っているものと思います。この連鎖は、軽く手を繋ぐような足し合わせ的な連鎖ではなく、腕を組むような強い連鎖、つまり「掛け合わせ的な」連鎖であることに留意する必要があります。何故でしょうか。足し合わせ的連鎖であれば、一つのステークホルダーのアウトプットがゼロであっても、他で頑張ることにより、企業全体としては何とかアウトプットを出せます。ところが、実際は掛け合わせ的連鎖ですので、一つでもアウトプットがゼロのステークホルダーが存在する（つまりあるステークホルダーが欠けてしまう）と、企業全体のアウトプットはゼロになってしまいます。逆に、そのアウトプットが2倍であれば、企業全体のアウトプットは2倍になる可能性があるのです。これからの企業活動においては、ますます「掛ける連鎖」が強まると言えます。今後とも、企業活動に関係するすべてのステークホルダーを大切にし、それぞれが常に1以上のアウトプットを出せる環境づくりを行うことが重要と思います。

上智大学
理工学部機能創造理工学科

教授 工学博士 清水 伸二 様

1948年6月生まれ。1973年3月上智大学大学院理工学研究科機械工学専攻修士課程修了後、1973年から1978年まで、㈱大隈鐵工所（現オークマ㈱）にて、円筒研削盤の開発設計に従事する。1981年上智大学大学院理工学研究科博士後期課程修了（工学博士）後、同大学助手に着任し、1994年 同教授、現在に至る。現在は、主として工作機械の構造ならびに結合部の設計技術、工作機械の性能評価法、ツーリング技術等の研究に従事している。
また、日本学術会議連携会員、日本機械学会フェロー、精密工学会フェロー、日本工作機械工業会 国際工作機械技術者会議（IMEC）運営委員会 委員長、精密工学会 代議員、砥粒加工学会 評議員、日本能率協会 工作機械関連技術者会議企画委員会　副委員長、上智大学理工学振興会会長等を務めている。これまでに、日本機械学会生産加工・工作機械部門 部門長、RC229　多軸工作機械における先進技術に関する研究分科会　主査、精密工学会 理事、砥粒加工学会 理事、SME　東京支部　支部長等を始めとし、多数の学会、工業会における各種委員会の主査、委員長等、多くの役職を歴任している。

編集後記

ＴＨＫ創立40周年の年にCSRレポート第5号を発行することができました。ＴＨＫの経営理念を受け、ＴＨＫ製品が皆様の回りでどのようにお役に立っているかを検証するために、特集の1つに独自に風力発電装置を製作し、次世代にクリーンなエネルギー供給ができるよう実験している姿を紹介しました。もう1つの特集では、東日本大震災の際にＴＨＫの免震装置利用者の声を聞き、安心を感じられた姿を紹介しました。

また、経年で紹介しているガバナンス・コンプライアンス体制、人財活用や地域社会に積極的に関わる姿勢、地球温暖化防止に向けた取り組みをＴＨＫとご関係のある方々の声を最大限取り入れてお伝えしました。

今後もCSR活動を全社一丸となり積極的に推進し、その結果を皆様にお伝えしていく所存です。つきましては、今回のレポートをお読みになった皆様方がどのような感想をお持ちになったのかご意見を賜りたく存じます。皆様方の貴重なご意見は今後のCSR活動やレポート作成の参考にさせていただきます。ご高覧のうえ、忌憚のないご意見・ご感想を同封のアンケート用紙にてお寄せいただければ幸いです。

CSRプロジェクト事務局

（次回発行予定2012年9月）